

# JCP OGAKI はんざわ REPORT

## 地域公共交通を考える

高齢になっても、運転免許を返納した後も「元気に住み続けられるまちづくりのために」をテーマに大垣市の地域公共交通を一緒に考えませんか？という企画が1月19日（土）にありました。

講師は、愛知大学非常勤講師の可児紀夫さん。可児さんは、国土交通省中部運輸局でバス・タクシーなどの運輸事業の許認可行政や地域交通の企画部門に取り組んでこられた方です。



(地域公共交通を考える集いでのグループワーク)  
居住地域ごとに分かれて意見を交換。バスが停まってほしいところにシールを貼って、岐阜の「くるりんバス(循環バス)」のようなコースができないか考えました。

## 基本的人権としての交通

「交通は、衣食住とともに人間社会をささえ持続可能な地域社会を形成するため重要な役割を果たします。さらに、交通は、人間社会を豊かに広げ、文化を育みます。交通は基本的人権です」と、「交通」とは何なのかという基本的な考え方を学びました。可児先生のお話は大きく3つに整理されていました。

- ① 何故こんなにも地域の交通問題が切実で深刻な問題になったのかという分析
- ② 地域交通の現状と特徴などについて説明
- ③ 地域交通を確保するための提言



特に印象的だったのは、少子高齢化が進む地方都市の公共交通には、今までの視点から一歩すすんだ施策が必要だということです。たとえば若い時には、日常的に「大垣駅まで出て、名古屋に買い物に行こうとか、駅前に一杯飲みに行こう」とかいうことになるけれど、高齢になるとなかなかそうはいかなくなる。免許を返納したり、返納を迫られる高齢者が増える町では、昔つくった中心駅へのアクセスのための公共交通以外にも、生活圏を中心とした巡回型のバスなどをきめ細やかに作っていくことが必要になってくるという説明には、なるほどと思いました。

また、交通政策づくりは、住民が主体となり、公務労働(公務員)や交通事業者との協同のとりくみを通じて、暮らしやすいまちづくりの土台になるとの話も印象的でした。大垣市と住民は対立するのではなく、こうした協同のまちづくりの実践のなかで成長することが可能だという点

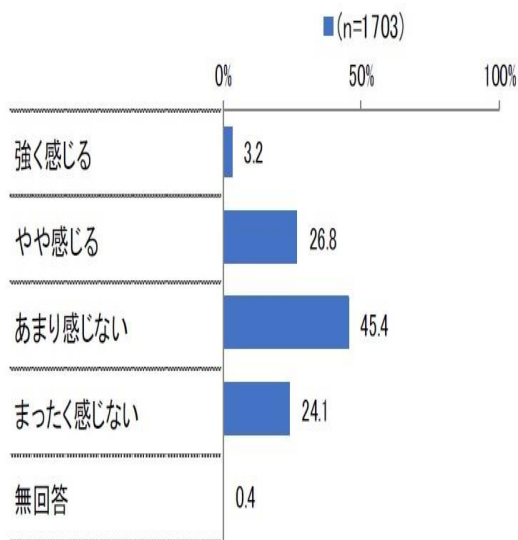
も活かしていく必要があると感じました。

さらに、「最近は、『ボランティアで』『地域の力で』というかけ声のもと、自治体や国が、地域の力に丸投げする姿も危惧されている。『交通権』を国や自治体が保障するという視点は大切」との話も改めて考えさせられました。

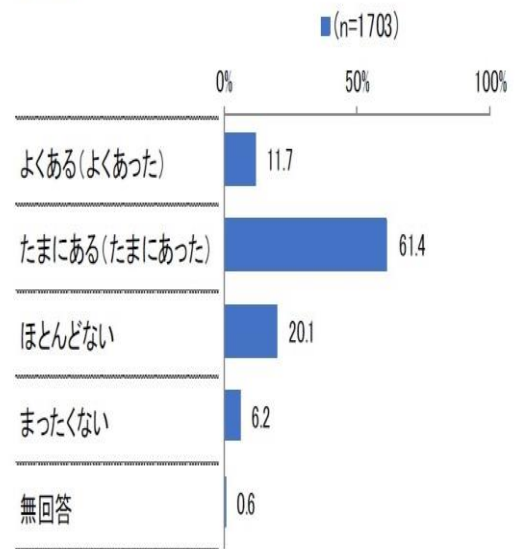
この学習会では、自治体が果たすべき役割という視点で大きな示唆を受けることができ、こうした視点を踏まえてしっかりと議会活動に取り組んでいきたいと思えます。

## 子育て支援計画は、「充実」を基本に

【孤立感を感じるかどうか】



【子どもに対する虐待経験】



(大垣市第三次子育て支援計画(素案)市民アンケート結果より)

現在、大垣市では「第三次子育て支援計画」の策定作業が進んでいます。枠組み作りのために大垣市が行った2018年11月の市民アンケート調査の結果(上記グラフ参照)を見て、少なくない親さんたちが「孤独」を感じていることや、「虐待」経験やそれに近いことがあったということが割と多いことに衝撃を受けました。

大垣市は、この結果をどのように分析しているのでしょうか。本当に真摯に受け止めているのか。そのうえで、どのような手立てを考えているのでしょうか。そうしたことが必ずしもしっかりと見えてこない「第三次子育て支援計画(素案)」になっているのではないかと思います。すでに、パブリックコメントの募集は締めきられています。子育て中の市民の皆さんとともに日本共産党大垣市議団としても「真の子育て日本一」をめざしてまいります。

発行者：日本共産党大垣市議団  
発行日：2020年2月1日(第52号)  
連絡先：大垣市室本町5-8  
TEL (0584) 78-6865  
FAX (0584) 73-8572

はんざわ多美  
教育福祉委員  
市民病院に関する委員  
E-mail hancyan\_tamicyan@yahoo.co.jp  
URL <https://hanzawatami.net>



# JCP OGAKI としや REPORT

## New! 西濃生活と健康を守る会 結成へ



(結成総会で挨拶をする笹田トヨ子前市議)

### ～事務所は中田としや生活相談所の一角へ

さる 1/25(土)14:00 から大垣市スイトピアセンターで西濃生活と健康を守る会 (以下、西濃生健会という) の結成総会が約 30 名の参加で開催されました。西濃生健会の事務所を中田としや生活相談所の一角とすることとなりました。

(電話番号は別となっています。西濃生健会 0584-81-1383)

生活と健康を守る会は、生活保護の運用改善や貧困問題に取り組み組織として全国で運動を展開してきていますが、大垣市をはじめとする西濃地域でもこうした問題

に取り組んでいこうという機運が盛り上がってきていました。

記念講演では、全大阪生健会の大口耕吉郎さんのお話をお聞きしました。

お話の中で大口さんは、「2018 年貯蓄なし世帯が、二人以上世帯で 23%、単身世帯で 39%になっている(金融公報中央委員会)」という数字をあげ、「貧困」が全国に広がっていること、「貧困」の恐ろしさは、社会から排除され、孤立し、人間性を失うことだと話されました。

私(中田としや)も、日常的に生活相談を受け、生活保護の同行申請等行う中で、なんとか生活は維持できても「家で1日テレビを見ているだけ」「行く場所がなく、外に出てもお金を使ってしまう。すると月末に困るので外に出ない」と言った声を聞いてきました。憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」とは、生活保護を受ければ即勝手にくっついてくるものではなく、「出番」と「居場所」が必要だと頷きながら聞いていました。

講演の中では、特に、大垣市の生活保護世帯の実態についての報告もありました。次の表は大垣市の生活保護の実態です。

### 大垣市における生活保護世帯の実態

全人口 世帯数(2019年4月)	16万1308人 6万6205世帯
生活保護(2019年10月)	657人 538世帯
生活保護の割合	0.4% (全国平均 1.65%)

大垣市の生活保護の割合が非常に低いことが気になります。本来は生活保護受給の対象者(国が定めた最低限度の生活以下にならざるをえない方)であるにも関わらず、生活保護の申請ができていない方がいないか注目する必要があります。

また、次の表は、大垣市の生活保護人員が、この4年間で、100人規模で減っていることを表したのですが、全国で格差と貧困が拡大しつつある中で、この傾向も気になります。



最後のセーフティネットとしての生活保護行政が、適切に行われているかどうかを注視していきたいと思います。

#### 2015年～2019年の生活保護人員の推移

2015年	2019年
774人 0.49%	657人 0.41% (全国平均 1.65%)

## どうなる？どうする？市民病院 (笹田トヨ子)

最近、市民病院の評判がよくない。「治療が終わった」という理由で、点滴している状態で退院し数日後に死亡された患者さん。こうした例が3例もあるということだ。

大垣市民病院は包括医療費支払い制度(DPC)を導入しており、治療が終了すれば、患者さんが在宅生活できない状態であっても退院を進められる。在院日数増えればそれだけ病院の収益に影響するからだ。大垣市民病院は入院患者の平均在院日数が2週間に満たない状態で、経営的には優秀な病院と言えるが、果たしてこれでいいのか。

大垣市民病院は全国の自治体病院の中で五指に入る黒字病院である。その背景には、公的病院の役割である不採算部門の医療(「へき地医療」や「障がい児者医療」)に見向きもしないで、「おいしい」ところだけ行っているからだ。

理念に掲げている「患者中心の医療」は怎么样了のか？

政治革新の道しるべ、  
真実つたえ希望はこぶ

しんぶん 赤旗

日刊●月 3497円  
日曜版●月 930円

## ケーテ・コルヴィッツといわさきちひろ



取り壊される旧庁舎から引っ越したばかりで殺風景だった新市庁舎の議員控室に、ケーテ・コルヴィッツ(ドイツの女性画家)の絵を飾りました。虐げられた人々への共感から労働者や母と子、戦争の悲惨をテーマに作品を描き続けたコルヴィッツの作品は、戦後、平和への願いを込めて子どもの絵を描き続けた「いわさきちひろ」に大きな影響を与えたといわれています(ちひろ美術館だより No171)。二度と戦争をしない、「子どもたちの笑顔を希望に」という想いを胸にきざみます。

発行者：日本共産党大垣市議団  
発行日：2020年2月1日(第52号)  
連絡先：大垣市室本町5-8  
TEL (0584) 78-6865  
FAX (0584) 73-8572

中田としや  
建設産業委員  
大垣市議会日本共産党会派幹事長  
E-mail nakatatoshiya015@gmail.com  
URL <http://nakata-toshiya.com>

